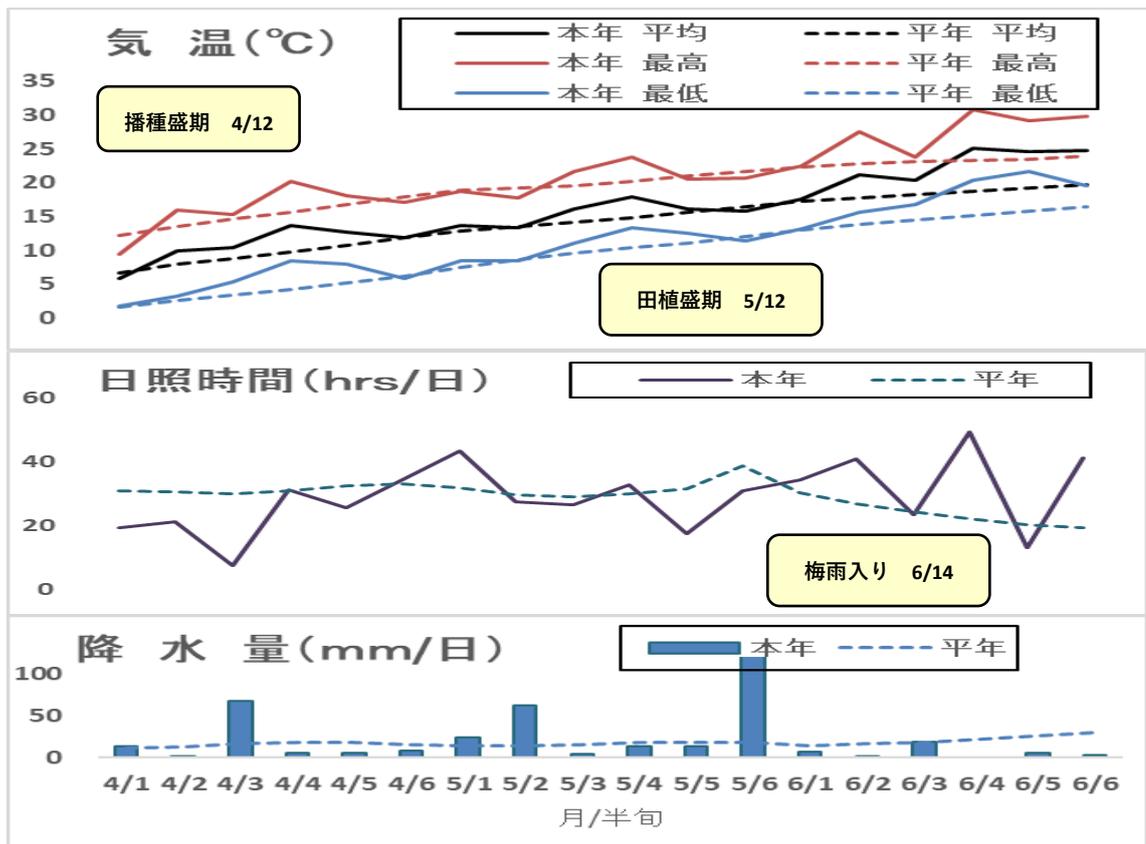


～中生品種の幼穂形成始期は 7月5日頃から！～

～斑点米カメムシ類の発生は平年より多いので 要注意！～

1 令和7年の気象経過（古川アメダス）と東北地方の1か月予報



◆7月3日発表 東北地方の1か月予報(7月5日～8月4日までの天候見通し)【気象庁ホームページより】

- ・期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が少ない。期間の後半は、天気は数日の周期で変わる。期間の前半は、気温がかなり高い状態が続く見込み。
- ・向こう1か月の気温は、高い確率80%、平年並み若しくは低い確率10%。
- ・降水量は、多い確率20%、平年並みの確率30%、少ない確率50%。
- ・日照時間は、多い確率60%、平年並みの確率30%、少ない確率10%。

| 気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%) | | | |
|------------------------|------|-----------------------|--------------------------|
| 気温 | 東北地方 | 向こう1か月 07/05～08/04 | 10 (低) 10 (平) 80 (高) |
| | | 1週目 07/05～07/11 | 10 (低) 10 (平) 80 (高) |
| | | 2週目 07/12～07/18 | 10 (低) 10 (平) 80 (高) |
| | | 3～4週目 07/19～08/01 | 10 (低) 30 (平) 60 (高) |
| 降水量 | 東北地方 | 向こう1か月 07/05～08/04 | 50 (低) 30 (平) 20 (高) |
| 日照時間 | 東北地方 | 向こう1か月 07/05～08/04 | 10 (低) 30 (平) 60 (高) |

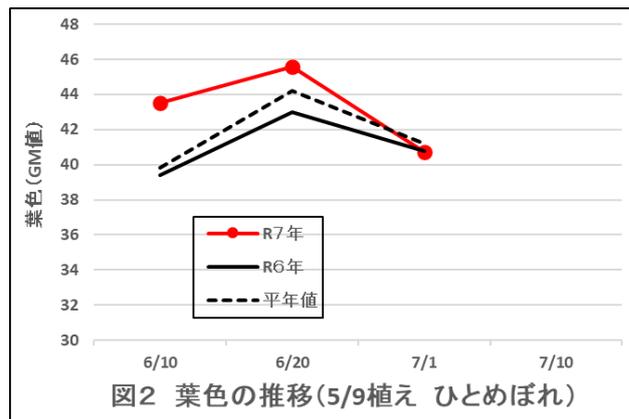
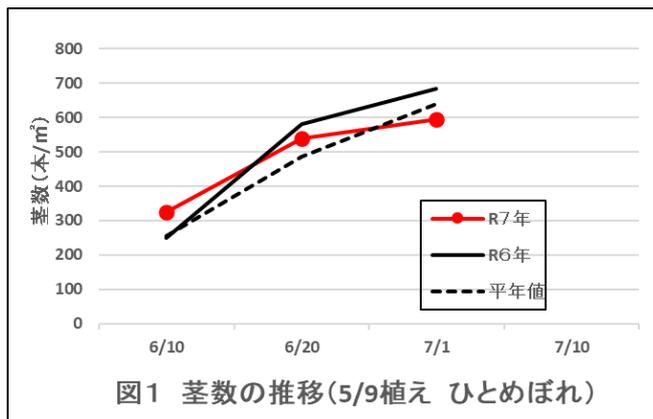
■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

2 生育状況（7月1日現在）

(1) 作況試験 5月9日植え ひとめぼれ（古川農業試験場）

- ・草丈は59.1cmで平年比115%，茎数は596本/m²で平年比93%である。
- ・葉色（GM値）は40.7で，前回調査時より低下し，概ね平年並みである。
- ・葉数は9.8枚で平年より0.2枚多く，生育ステージは概ね平年並みと見込まれる。

| 移植日 | 草 丈 | | | 茎 数 | | | 葉 色 | | | 葉 数 | | |
|------|-------------|------------|------------|----------------------------|------------|------------|--------------|--------------|--------------|------------|------------|------------|
| | 本 年 (cm) | 前年比 (%) | 平年比 (%) | 本 年 (本/m ²) | 前年比 (%) | 平年比 (%) | 本 年 (GM値) | 前年差 (GM値) | 平年差 (GM値) | 本 年 (枚) | 前年差 (枚) | 平年差 (枚) |
| 5月9日 | 59.1 | 107 | 115 | 596 | 87 | 93 | 40.7 | -0.1 | -0.5 | 9.8 | 0.0 | 0.2 |

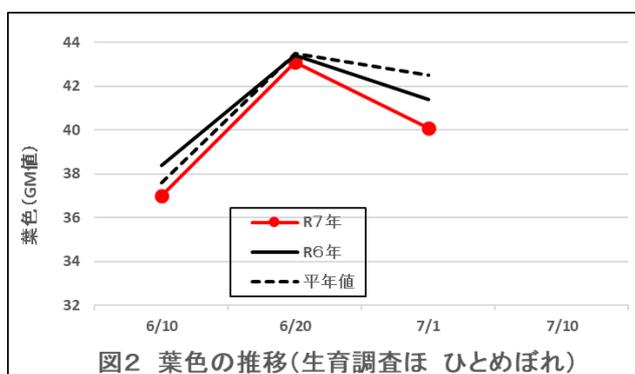
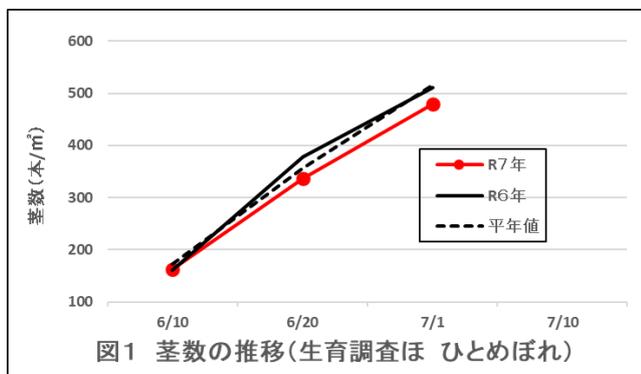


(2) 生育調査ほ（古川農業試験場及び各農業改良普及センター）

- ・品種別の草丈は56～60cm程度で，平年より長い。
- ・茎数は420～504本/m²，平年比83～93%となっており，平年より少ない。
- ・葉色（GM値）は38～40程度で，平年より低めに推移している。

●古川農業試験場の「作況試験」や「生育調査ほ」の調査結果から推察すると，茎数は平年より少なめで，葉色は平年並み～低めに推移していると思われる。

| 品種名 | 草 丈 | | | 茎 数 | | | 葉 色 | | |
|-------|-------------|------------|------------|----------------------------|------------|------------|--------------|--------------|--------------|
| | 本 年 (cm) | 前年比 (%) | 平年比 (%) | 本 年 (本/m ²) | 前年比 (%) | 平年比 (%) | 本 年 (GM値) | 前年差 (GM値) | 平年差 (GM値) |
| ひとめぼれ | 58.1 | 104 | 110 | 480 | 94 | 93 | 40.1 | -1.3 | -2.4 |
| ササニシキ | 55.9 | 105 | 112 | 504 | 90 | 83 | 38.1 | -2.6 | -2.2 |
| つや姫 | 59.9 | 109 | 124 | 420 | 91 | 88 | 40.0 | -1.0 | -3.7 |



- ・移植時期別（ひとめぼれ）の草丈は54～62cm程度で、平年より長い。
- ・茎数は458～578本/㎡で、上旬植えは平年並みだが、中旬植え・下旬植えは平年より少ない。
- ・葉色は39～42程度で、平年より低めに推移している。
- ・草丈は平年より長く、上旬植えは有効茎数が確保されたが、中旬植え・下旬植えは少ない。
- ・葉色は、すべての移植時期で平年より低めに推移している。
- 6月の高温・多照により、草丈は平年以上に回復したが、中旬植え・下旬植えは茎数の増加が追い付かず、葉色は平年より低めに推移していると推測される。

| 移植時期 | 草 丈 | | | 茎 数 | | | 葉 色 | | |
|---------|-------------|------------|------------|--------------|------------|------------|--------------|--------------|--------------|
| | 本 年 (cm) | 前年比 (%) | 平年比 (%) | 本 年 (本/㎡) | 前年比 (%) | 平年比 (%) | 本 年 (GM値) | 前年差 (GM値) | 平年差 (GM値) |
| 5/1～9 | 61.7 | 101 | 113 | 578 | 96 | 102 | 39.1 | -1.7 | -4.0 |
| 5/10～19 | 57.4 | 110 | 113 | 467 | 98 | 94 | 39.9 | -1.9 | -2.1 |
| 5/20～31 | 53.9 | 111 | 110 | 458 | 85 | 85 | 42.3 | 0.1 | -1.0 |

(3) 幼穂の生育状況【参考】

- ・6月27日調査；石巻地方の「つきあかり（5月3日移植、ひとめぼれより2～4日程度早い品種）」で、幼穂長0.3mm程度。 → 幼穂形成始期は7月1日頃？
- ◆「ひとめぼれ」や「ササニシキ」など、中生品種の幼穂形成始期は7月5日頃からと見込まれる。

3 今後の管理

(1) 水管理

- ・中生品種は、まもなく幼穂形成始期（古川農業試験場「5月9日移植ひとめぼれ」の平年値は7月8日）を迎える。中干し終了後から出穂期までは間断かんがいはまたは飽水管理を行い、根の健全化を図る。
- ・出穂期までの間に低温が続く場合は、深水管理を行い、幼穂を保護する。

(2) 肥培管理

- ・茎数が不足気味のほ場では、穂数不足が懸念される。幼穂形成期の追肥が有効な品種は、茎数や葉色の推移を確認して幼穂形成期の追肥を行い、穂数の確保を図る。
- ・今年は葉色の低下が平年より早い傾向にあり、早めに肥料が切れる可能性があるため、適期に追肥を実施する。
- ◆品種ごとの追肥窒素量(kg/10a)は、以下を目安にする。

| 品種名 | ひとめぼれ | ササニシキ | だて正夢 | 金のいぶき | つや姫・まなむすめ |
|-------|-------|-------|------|-------|-----------|
| 幼穂形成期 | 1 | - | - | 1 | 2 |
| 減数分裂期 | 1 | 1～1.5 | 2 | 1 | - |

- ◎「だて正夢」の場合、有効茎数が少なく穂数不足が予想される場合には、幼穂形成期と減数分裂期に窒素成分で1kgずつ分けて施用し、適正籾数の確保を図る。
- ◎「金のいぶき」の葉色は、「ひとめぼれ」に比べ淡く推移し、幼穂形成期から減数分裂期にかけて、著しく低下する。このため、減数分裂期の葉色値（SPAD502値）が30以下にならないよう、幼穂形成期と減数分裂期に窒素成分で1kg程度施用し、減数分裂期の葉色値を30～32程度に維持する。

(3) 病害虫防除【宮城県 病害虫防除所ホームページより】

① いもち病

- ・東北地方は、6月14日頃に梅雨入りしたとみられる。
- ・宮城県病害虫防除所が公表した「発生予報 第5号（7月2日発行）」によれば、葉いもちの全般発生期は「平年並みの7月第3半旬」で、発生量は「平年並み」と予想されている。
- ・「葉いもちの感染好適条件の出現状況（BLASTAM）」による推定では、6月24日から27日にかけて、感染好適条件の発生が県内の各地で確認されている（下表参照）。

| 日付 | 駒ノ湯 | 気仙沼 | 川渡 | 築館 | 米山 | 志津川 | 古川 | 大衡 | 鹿島台 | 石巻 | 女川 | 新川 | 塩釜 | 仙台 | 白石 | 蔵王 | 亘理 | 丸森 |
|------|-----|-----|----|----|----|-----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 6/23 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 6/24 | — | ● | — | — | ● | — | ○ | — | ● | ● | — | ● | ● | ○ | — | ● | — | — |
| 6/25 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 6/26 | ● | ● | ● | ● | — | ● | ● | ● | — | — | ● | ● | ● | ● | — | ● | ● | — |
| 6/27 | — | ● | ● | ● | — | ● | — | — | ● | — | — | — | — | — | — | ● | — | — |
| 6/28 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 6/29 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 6/30 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |

| | | |
|---|--------|--|
| ● | 好適条件 | 葉いもちの大量感染に好適な気象条件(葉面湿潤時間10時間以上, 平均気温15~25℃, 前5日間の平均気温20~25℃)が出現した日 |
| ○ | 準好適条件1 | 当日の条件は満たしているが, 前5日間の平均気温が条件から外れている場合 |
| △ | 準好適条件2 | 葉面湿潤時間の長さのみ好適条件を満たしている場合 |
| — | 好適条件なし | |
| ? | 判定不能 | |

- ・梅雨に入り、葉いもちの発生しやすい時期になるので、早期発見・早期防除に努める。
- ・移植栽培ほ場において、残苗が残っている場合は、大至急処分すること！
- ・直播栽培など、箱処理剤を使っていない場合は、適期に水面施用剤を散布する。
- ・箱施用剤を施用した場合は、7月上旬～中旬以降に薬効が切れる。
- ・予防粒剤による「穂いもち」防除は、出穂前20～10日前を目安とする。

② 斑点米カメムシ類

- 病害虫防除所が6/23～27に行った巡回調査によれば、水田周辺の畦畔におけるアカスジカスミカメ成虫の発生地点率は平年並みで、すくい取り虫数は平年よりやや多かった(図1)。
- ・水田におけるアカスジカスミカメ成虫の発生地点率は平年より高く、すくい取り虫数は平年より多かった(図2)。

- ・アカスジカスミカメは、県内の広域で水田への侵入が確認されている。また、大型のホソハリカメムシ及びクモヘリカメムシも、県内の複数地点で本田への侵入が確認されている。



【ホソハリカメムシ】



【クモヘリカメムシ】

- ◆そのため、病害虫防除所では7月2日付けで「防除情報 第4号」を発行し、水田周辺の草刈りと薬剤による適期防除を呼び掛けている。

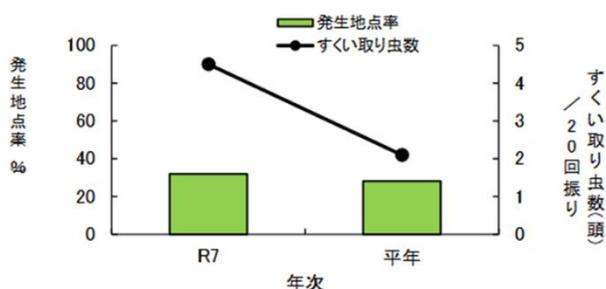


図1 水田周辺の畦畔におけるアカスジカスミカメ成虫の発生地点率とすくい取り虫数 (巡回調査: 6/23~6/27)

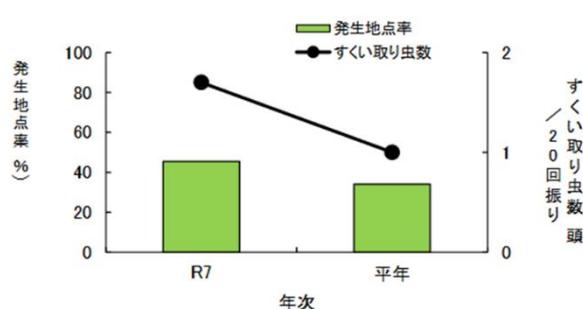


図2 水田におけるアカスジカスミカメ成虫の発生地点率とすくい取り虫数 (巡回調査: 6/23~6/27)

- ・水田内にイヌホタルイやノビエ等が残草している場合は、斑点米カメムシ類の水田への侵入や斑点米被害を助長するので、雑草の穂が出る前の7月上旬までに除草を行う。
- ・発生源となる畦畔や雑草地・牧草地等のイネ科雑草は、7月中旬(水稻出穂の10日前まで)を目安に草刈りを実施する。
- ・草刈りを出穂期前後に行うと、斑点米カメムシ類を水田内に追い込むことになるため、水稻の生育状況を確認し、出穂の10日前(水稻の減数分裂期、止葉とすぐ下の葉の葉耳間長が±0cmの頃)までに終える。
- ・薬剤による防除適期は、1回目が穂揃期頃、2回目が1回目の7~10日後が基本である。
- ◆ジノテフラン液剤(スタークルメイト液剤10等)、エチプロール水和剤(キラップフロアアブル)、スルホキサフル水和剤(エクシードフロアアブル)は、アカスジカスミカメに対する防除効果が高い。特に、ジノテフラン液剤は残効が長く、2週間程度は発生密度を抑制することができる。
- ・イヌホタルイやノビエの除草ができなかった水田では、1回目の薬剤散布時期を「出穂始から穂揃期」に早めると、アカスジカスミカメの密度を低下させることができる。